

日本ユニシス株式会社

2017年3月期 第3四半期決算説明会 (2017年2月1日開催)

主な質疑応答 (ご理解いただきやすいよう表現を変更している箇所があります。)

【質問者 A】

Q：従業員賞与の計上額が18億円とのことだが、1Q、2Q、3Qでそれぞれ6億円ずつ計上されたという理解で良いか？

A：3Q(10-12月)での賞与計上額が18億円である。前期3Qは賞与を計上していないため、今期は3Qで18億円の負担増となっている。なお、上期での賞与計上額は、前年同期とほぼ同水準であった。

Q：アウトソーシングの受注が引き続き好調となっているが、現在の受注環境を教えてください。今期は金融機関向け大型アウトソーシング案件の受注を予定していると思うが、現在の獲得状況は？

A：今期3Qは、グローバル企業向けで大型案件の受注等があり、前年同期比で+30億円の増加となった。金融機関向け案件については、上期決算時の状況から変化はなく、2Qに一部受注し、残りは4Qに受注予定である。

【質問者 B】

Q：下期の従業員賞与計上額は、前年同期比でどう変化するのか？今期3Qに従業員賞与を18億円計上したとのことだが、4Qも同額程度を計上予定なのか？

A：賞与の絶対額の回答は差し控させていただきます。営業利益に連動した業績連動賞与としており、当期は営業増益の計画としているため、年間の賞与支払額は増加すると予想されることから、下期の賞与計上額は、前年同期よりも多くなる見込みである。

Q：12月末の受注残高が高水準となっているが、このうちのどのくらいが4Q売上に計上される予定か？

A：12月末の受注残高は2,147億円となっており、このうちの4分の1程度が今年度内に売上計上予定である。セグメントごとにばらつきがあり、アウトソーシングは長期案件が多いため来期以降に売上計上予定のものが圧倒的に多いが、ハードウェア販売などは、ほとんどが今年度内に計上予定である。

Q：4分の1が年度内売上予定という比率は、前年同期と比べて高いのか？

A：ほぼ同水準である。例年、3Q末の受注残高のうち4分の1程度が年度内に計上される。

(注)本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

日本ユニシス株式会社

2017年3月期 第3四半期決算説明会 (2017年2月1日開催)

【質問者 C】

Q：3Qの賞与計上18億円のうち、10億円が原価に計上されているとのことだが、セグメント別にどのように影響しているのか？ソフトウェアの売上総利益率が低下しているのは、その影響によるものか？

A：賞与の原価計上分10億円のうちのほとんどがシステムサービスに、一部がサポートサービスに計上されており、ソフトウェアやハードウェアの原価には影響していない。3Qのソフトウェアの売上総利益率が低下しているのは、売上全体の構成において、利益率の低い製品の比率が増加したことによるものである。

Q：上期の営業利益は計画を上回る着地となったが、3Q実績は計画に対してどうだったのか？

A：3Qは公表計画値がないため、社内計画比となるが、3Q累計で見ると、売上は計画を少し下回り、営業利益も若干下ぶれたもののほぼ想定どおりの着地であった。

【質問者 D】

Q：3Q業績は、賞与計上の影響（売上原価に10億円、販管費に8億円計上）を除けば、売上総利益は156億円、販管費は114億円となり、実質的な営業利益は43億円であるという理解で良いか？

A：その通りである。

Q：業績連動賞与とのことだが、下期の営業利益は前年同期比で8億円の増益計画としているので、下期の賞与は、その増益分の何割か程度の金額が増加するという認識で良いか？

A：業績連動賞与のフォーミュラは、賞与計上前の営業利益をベースにして設定してあるので、開示している営業利益の増減から計算するのは難しいと思うが、前期比での賞与増加額としては、3Qの賞与計上額の約半分程度の額となるだろうと試算している。

Q：3Qのシステムサービスは、受注高は伸びている一方で、売上高は横ばい、受注残高は減少という状況だ。現在の需要動向と、今後の成長力をどう見ているのか教えてほしい。

A：システムサービスについては、お客様の要望もあり、案件が比較的小型化、短納期化しており、そのため受注残高の積み上がりが減少してきている状況であると考えている。各業界ともに案件は豊富にあるため、先行きについては心配していない。

日本ユニシス株式会社

2017年3月期 第3四半期決算説明会 (2017年2月1日開催)

【質問者 E】

Q：マーケット別の売上高を見ると、官公庁の他に、商業・流通もマイナス成長となっているが、受注環境や引き合い状況を教えてほしい。

A：商業・流通については、前年同期にハードウェアおよびソフトウェアの中型案件を複数計上した影響で、売上高は減収となっている。官公庁については、地方自治体向けの一部案件の契約終了の影響等により減収となっている。反動減等の影響により、売上高は減収となっているが、実質的な受注環境は堅調な状況が続いていると考えている。

Q：17/3期通期の見通しについて、2Q決算時の見通し数値と比較すると、サポートサービスの総利益を上方修正し、ソフトウェアの総利益を下方修正しているようだが、その背景を教えてほしい。

A：サポートサービスは、昨年より取り組んできた外注費削減等の原価削減策の効果が現れてきている。3Q累計では外注費が5億円程度減少しており、利益率も改善傾向にあることから、通期見通しを上方修正した。外注費の削減効果は、今後も一定程度出てくるものと考えている。ソフトウェアについては、さまざまな製品を扱っており、利益率はその時々で変化するものの、足元では利益率の低い製品の比率が増加していることから、総利益の見直しを見直した。

以上